

# 『冒険活動教室が児童生徒の道徳性に及ぼす効果』について（概要版）

## 1 調査の目的

学習指導要領改訂に伴い、道徳の時間が「特別の教科 道徳」として位置づけられた。それに伴い、本市の児童生徒の道徳性の実態を把握するとともに、冒険活動教室が児童生徒の道徳性の変容にどのような効果をもたらしているかを明らかにすることを調査の目的とした。それらを明らかにすることが、今後の効果的な冒険活動教室の実施と道徳教育の充実の一助となるようにする。

## 2 調査概要

児童生徒のアンケート調査に基づき冒険活動教室の満足度、道徳性の変容を測定し、それらの関連を分析。併せて引率教員のアンケート調査も実施。なお、本調査は、東洋大学平野智之准教授、淑徳大学永井大樹講師との共同研究として実施した。

### (1) 方法

4件法による「冒険活動教室アンケート調査」を体験活動の事前と事後、1か月後の3回実施。調査時間：10～15分程度  
 「とても思う」 } 4点 「すこし思う」 } 3点 「あまり思わない」 } 2点 「まったく思わない」 } 1点  
 「とてもあてはまる」 } 「すこしあてはまる」 } 「あまりあてはまらない」 } 「まったくあてはまらない」 }

### (2) 対象

・冒険活動教室に参加した児童生徒（※ともに各学校1学級抽出）

### (3) 項目（冒険活動教室の満足度+道徳性の4つの視点）

- I. 「冒険活動教室満足度」（4項目）
- II. 「主として自分自身に関すること」（3項目）
- III. 「主として人との関わりに関すること」（3項目）
- IV. 「主として集団や社会との関わりに関すること」（3項目）
- V. 「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」（3項目）

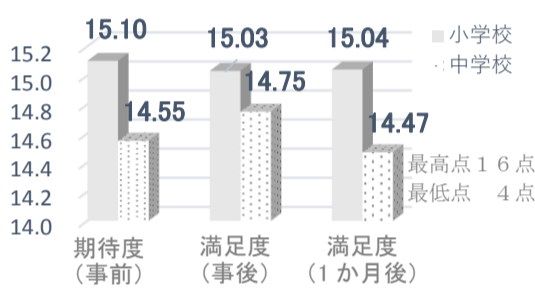
道徳性の4視点（12項目）

### (4) 調査計画

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
質問紙作成 中学校4校649名、 小学校6校497名を対象とし、予備調査を実施	本調査開始（1年目） 小68校、中25校 ・児童生徒の道徳的な意識、行動実践の実態について ・冒険活動教室満足度	本調査2年目 ・冒険活動教室満足度と道徳性の相関について（H29まとめ）	本調査3年目 ・冒険活動教室満足度と道徳性の相関について（H30まとめ）	・冒険活動教室満足度と道徳性の相関について（R1まとめ） ・調査研究（3年間）のまとめ

## 3 調査結果（R1まとめ）

### (1) 冒険活動教室満足度について



小中学校共に、どの項目も総得点の9割以上の得点を示していることから、多くの児童生徒が大きな期待をもって冒険活動教室に参加し、満足したことが分かる。冒険活動教室では体験を学びへと昇華するために、活動後に「振り返り」を行っている。満足度から推察するに、「振り返り」が、様々な体験を、児童生徒にとって価値ある学びとしたといえる。

※ 各視点3項目（4点満点）の平均値を算出

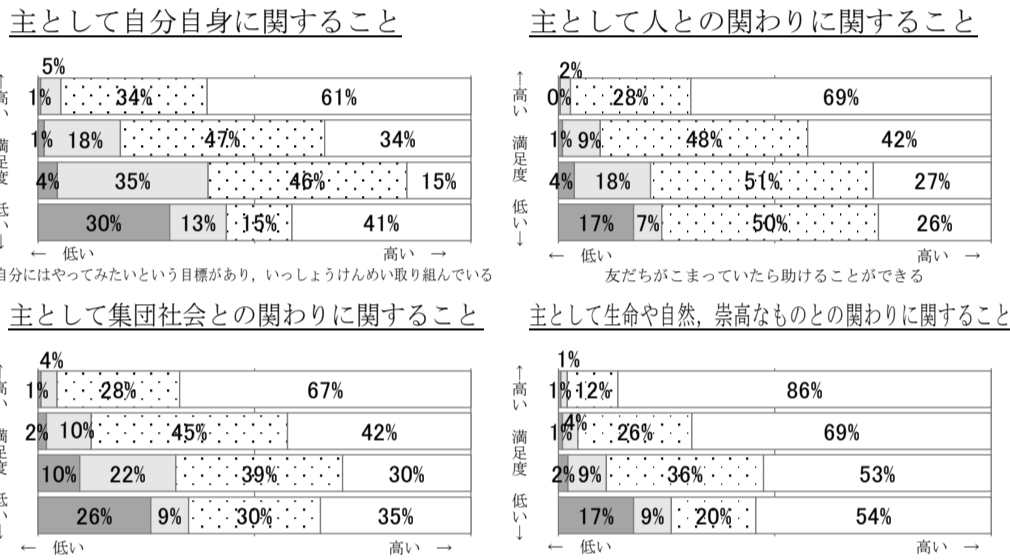
道徳性の4視点	学校	事前	事後	1か月後
主として自分自身に関すること	小学校	3.47	3.51 ↑	3.43 ↓
	中学校	3.35	3.38 ↑	3.40 ↑
主として人との関わりに関すること	小学校	3.69	3.68	3.62 ↓
	中学校	3.57	3.59	3.56
主として集団や社会との関わりに関すること	小学校	3.37	3.42 ↑	3.35 ↓
	中学校	3.14	3.19 ↑	3.20 ↑
主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	小学校	3.67	3.69 ↑	3.67
	中学校	3.59	3.61	3.60

（網掛け部については、統計的な検定から変容に意味があると認められる）  
 ↑：事前よりも上昇 ↓：事前よりも下降

小学校においては、「主として自分自身に関すること」「主として集団や社会との関わりに関すること」「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の3視点で、事前から事後について得点が上昇している。中学校においては、「主として自分自身に関すること」「主として集団や社会との関わりに関すること」の2視点で、事前から事後そして1か月後も得点が上昇している。

変容の結果からは、冒険活動教室における豊かな体験活動は、児童生徒の道徳性の育成を図るのに重要な役割を示しているということが分かる。

### (3) 冒険活動教室満足度と道徳性の関連



冒険活動教室満足度と道徳性には相関があり、満足度の高い児童生徒ほど、道徳的な実践性が高いということが分かった。また、満足度が低い児童生徒についても、道徳性について肯定的回答が否定的回答を上回る傾向が強い。これは、冒険活動教室に対して不安や緊張を感じたり、自意識と実態の差に葛藤を感じたりしながらも、個人としては高い道徳性を備えていることが分かる。

### (4) 引率教員アンケート調査結果（回答数 小学校：280人 中学校：253人）

・変容に効果があったと思われる活動について ※3つ選択

	1位	2位	3位	4位
小学校	イニアティブゲーム (252名)	登山 (112名)	野外炊飯 (63名)	キャンドルファイヤー 杉板焼き (各52名)
中学校	登山 (166名)	野外炊飯 (158名)	アドベンチャーゲーム (79名)	キャンドルファイヤー (67名)

児童生徒の変容に効果があったと思われる活動について、小中学校共に、「登山」「野外炊飯」「キャンドルファイヤー」が上位に入っており、引率教員が教育効果の高い活動として捉えていることが分かる。なお、達成感が得られる、協力について学べる、交流を深められる等の理由からである。

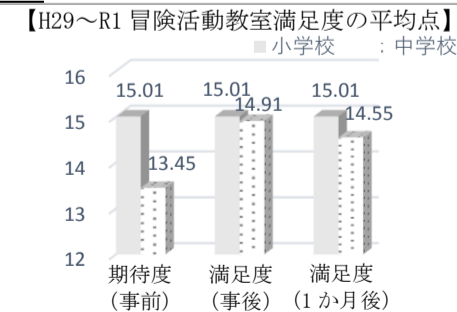
以上から、冒険活動教室を実施する各校が、それぞれの「ねらい」を明確にして活動を選択することが、教育効果をより高めることにつながるという。

## 4 平成29年度～令和元年度調査の結果から

### 成果①：児童生徒の満足度の高い冒険活動教室

- ・小学校は高得点を維持し、中学校は満足度が大きく期待度を上回った。
- ・児童生徒はもとより引率教員も教育効果の高さを認識。

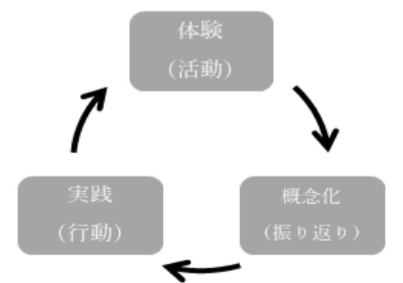
今後、児童生徒が実体験による達成感や充実感を味わえるように、職員の専門性を高め、指導支援の充実を図る。



### 課題：一過性の集団宿泊学習としないために

- ・満足度、道徳性の高まりや変容を持続させるため、体験の質の向上及び事前事後の学習が重要である。

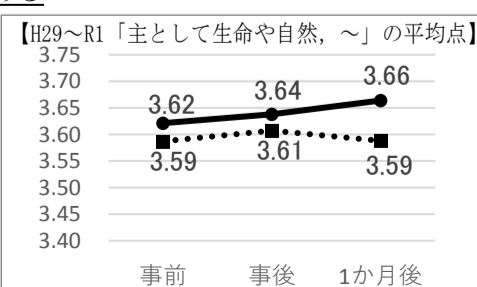
体験直後の振り返りの重視、出前授業やワークシートの活用等、学校と連携を図る。



### 成果②：児童生徒の道徳性の変容に効果がある

- ・小中学校共に、道徳性の4視点全てにおいて事前から事後に得点の上昇が見られ、「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」においては、1か月後も高得点を維持。
- ・満足度との相関が認められた。

冒険活動教室を道徳性実践の場として捉え、体験活動と道徳科を関連付けた展開を目指す。



### これまでの調査から

冒険活動教室は特別活動として扱われるが、新学習指導要領でも示されている通り道徳教育において特別活動が担う役割は大きい。冒険活動センターでは、冒険活動教室を道徳性実践の場、道徳性育成のきっかけの場として位置付け、より効果的な体験活動が実施できるよう、今後も「直接体験」と「支援」の充実を図っていく。

また、児童生徒の学びを一番近くで支えているのは、学校の先生方である。先生方の努力のおかげで、冒険活動教室は成り立っている。今後も、児童生徒の学びがより深まるよう、学校との連携を密にしていこう。